

第5号様式（第6条関係）

綾瀬小学校 学校運営協議会会議録

会 議 の 名 称	第2回 綾瀬小学校 学校運営協議会		
開 催 日	令和4年8月25日（木）		
開 催 時 間	10時30分 ～ 12時00分		
開 催 場 所	綾瀬市立綾瀬小学校 3階多目的室		
議 長	比留川 祥隆		
出 席 者	校長 豊田 政治 委員 林 道男、比留川 祥隆、栗原 芳子、 笠間 裕三、綱島 淳子、佐々木 美和、 飯島 可奈子、小島 朋見、奥津 聡、 小林 英美、横山 友子		
傍 聴 の 可 否	可	傍 聴 者 数	0
会 議 の 内 容			
【議題】 熟議 ・学力を向上させるには ・子どもたちの遊びについて			
【主な意見・決定事項など】 ○「学力を向上させるには」 ・何をもって学力というのか。 ・テストで点を取るだけではない。 ・何に対しても学ぶ力である。 ・子どもたちにはどれだけ多くの人と接点を持っているかが大事である。 ・小学生のうちに、たくさんの人と会う、話を聞く、話す、体験するなど関わらせていきたい。そうすることで視野も広がる。 ・ゲストティーチャーによるさつま芋掘り、自然と触れ合ったり、話を聞いたりすることによって農家の仕事を知ることを10年以上続けている。 ・ボランティアを募集するとたくさん来てくれる。 ・ボランティアの募集については、招集の仕方や周知の仕方など入りやすいシステムが必要である。 ・堅苦しくない雰囲気をつくることやラインなどの活用も考えられる。			

- ・子どもたちが小学生のうちに地域とかかわる体験や経験を積み重ねることで、地域の一員という思いが育ち、将来、地域のためにという思いでボランティアに参加するのではないか。その一歩踏み出すきっかけ作りが大事である。

○「子どもたちの遊びについて」

学校・家庭地域（保護者・プラザ）での見取り

- ・本校では、外遊びをする子が少なく、遊び方を知らない子が多いように感じる。異学年交流やクラス別交流が盛んではないという現状である。
- ・プレイウッズで遊んでいる子が多い。
→現状：プレイウッズで遊んでいる子＝異学年交流できている＝自分たちで遊びをつくることができる子
- ・プラザでは、知らない子同士でも遊んでいる。低学年は名前や顔が分からなくても、会う頻度が高くなると遊ぶ傾向になっている。また、今年度、教室配置をかえたこともあり、6年生と1年生の交流は盛んになった。
- ・遊ぶ場所がなく、公園では禁止事項が多いので遊べない。
- ・課題がある子は校内だけでなく、遊びの中でも課題はある気がする。ゲームをしている子は、場が外で共に一緒の空間にいるというだけでコミュニケーションを頻繁にとっているというわけではなく、友達と交流しているとはいいいがたい。
- ・コミュニケーション能力の低下を感じる。
- ・子どもたち自身が何もない状態から遊びをつくれるようになってほしい。

○策の一つとして

- ・保護者に、放課後の子どもたちの過ごし方についてアンケートをとって見たらどうだろうか。
例：自分が子どものころにどんな遊びをしていたか
自分が今、子どもに、どんな遊びをしてほしいか
自分が子どもの遊び方、放課後の過ごし方について知っているか
- ・昔遊びの紹介を地域の方にお問い合わせしたらどうだろう。
動画を活用してもよい。撮影するのであれば、綾瀬小児童も出演し、地域も一緒に撮影するのもよいのではないか。

【配付資料】

レジュメ、その他関係文書

次回開催予定

令和5年3月上旬